

第1回 ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会  
事務局資料

# ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会 における今後の論点について

令和2年7月10日

国土政策局 総合計画課

# Ⅰ．本懇談会の議論の進め方と論点

# 1. 「ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会」の設置 国土交通省

- 人口減少・少子高齢化が進行する状況において、地域の社会的・経済的活力を維持していくためには、地域住民と関係人口の活動力を高めていく必要がある。
- 令和元年度は、「ライフスタイルの多様化等に関する懇談会」において、ライフスタイルの多様化及びシェアリングが関係人口の拡大・深化に及ぼす影響、つながりのサポートの重要性等に関して議論し、課題を整理するとともに、三大都市圏における関係人口の実態把握を試行的に実施したところ。
- 令和2年度は、「ライフスタイルの多様化等に関する懇談会」の議論を踏襲し、新型コロナウイルスが関係人口に与える影響を踏まえつつ、関係人口の実態把握を全国規模で実施するとともに、地域側の視点を取り入れた関係人口の拡大・深化に向けた施策の方向性の検討を通じて、関係人口と連携・協働する地域づくりのあり方を示す。

## 懇談会の構成

(懇談会委員) ◎: 座長

- ◎小田切 徳美 明治大学農学部教授
- 石山 アンジュ 一般社団法人シェアリングエコノミー協会 事務局長  
一般社団法人Public Meets Innovation 代表理事
- 岡本 圭司 鳥取県交流人口拡大本部ふるさと人口政策課  
関係人口推進室長
- 嵩 和雄 NPO法人100万人のふるさと回帰・循環運動推進・  
支援センター 副事務局長
- 指出 一正 (株) sotokoto online  
代表取締役 ゼネラルプロデューサー兼編集長
- 多田 朋孔 NPO法人地域おこし 事務局長
- 谷口 守 筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授
- 中島 みき (株) カヤックLiving 代表取締役

(事務局)

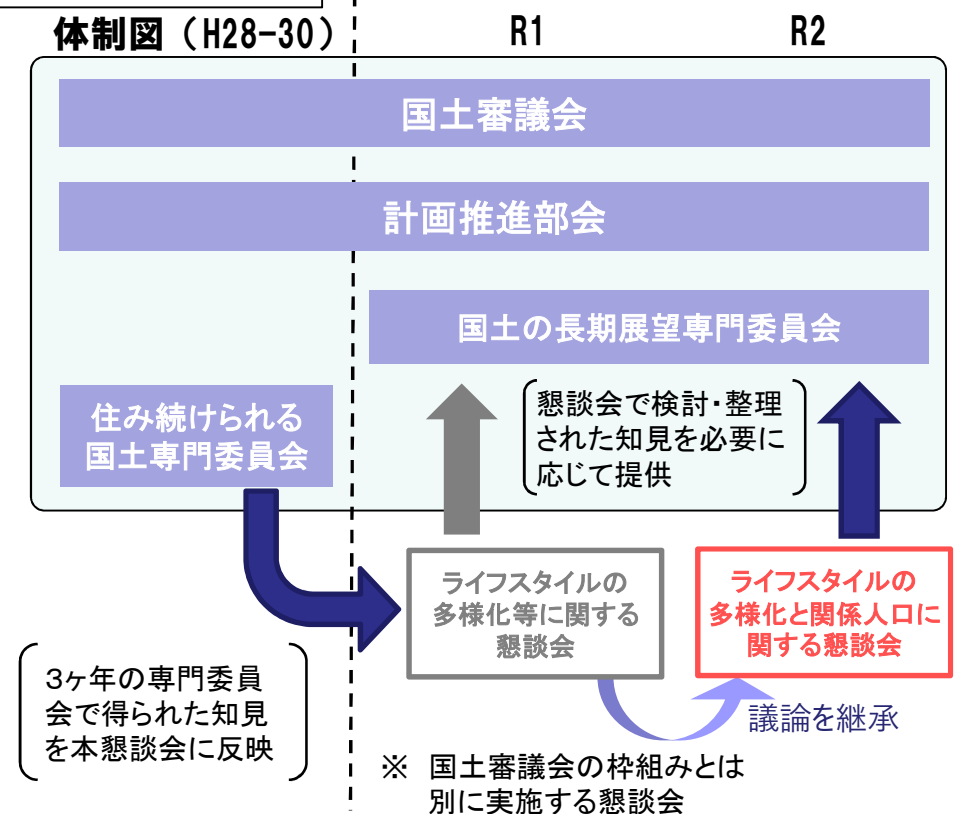
国土交通省国土政策局総合計画課

(オブザーバ)

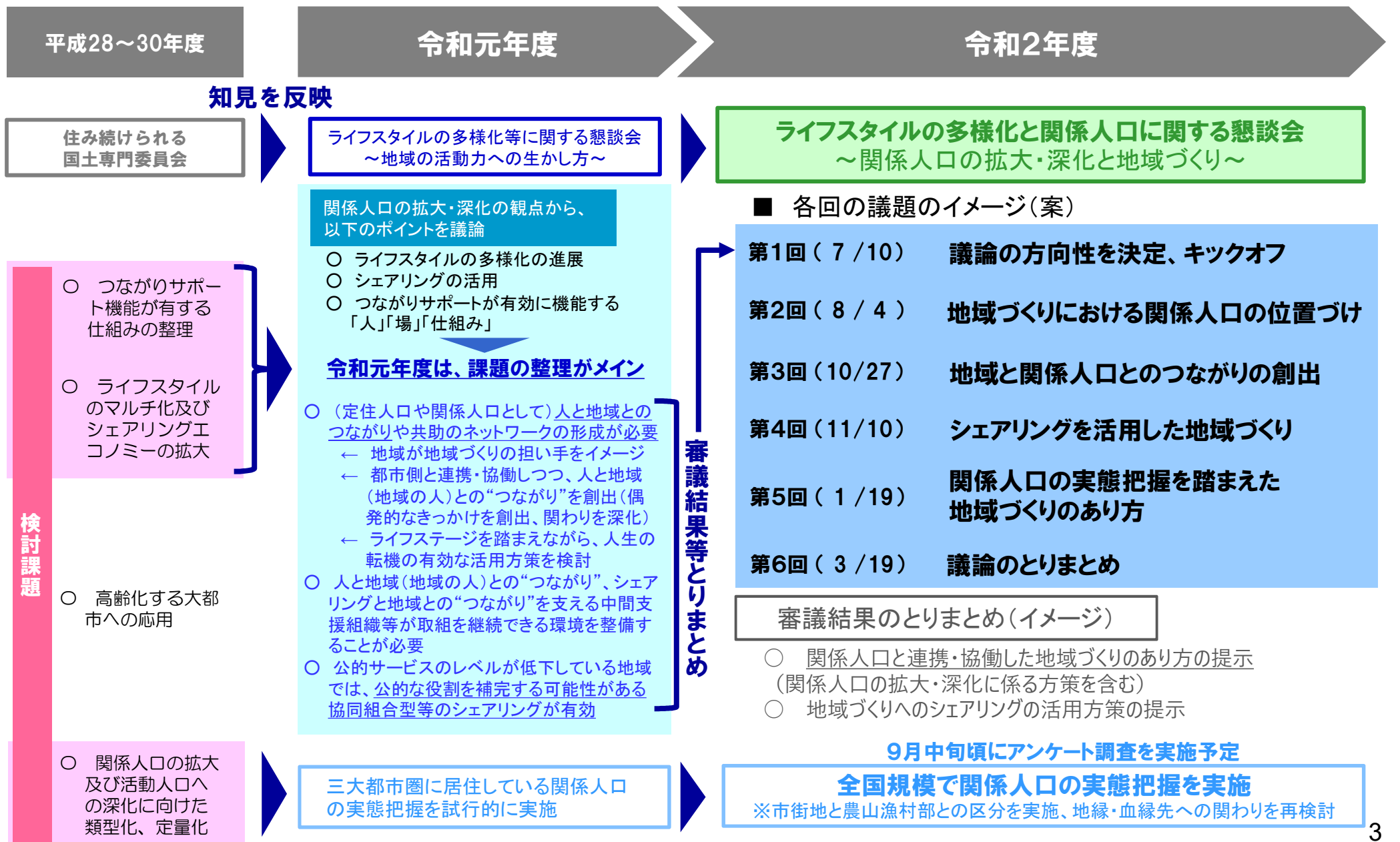
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、総務省、農林水産省

## 検討体制について

## 体制図



# 2. 検討に係るロードマップ（事務局案）



# 3. 前懇談会で整理された課題と本懇談会の論点

## 前懇談会で整理された課題

### 1. 人と地域とのつながりによる地域づくり

(定住人口や関係人口として) 人と地域とのつながりや共助のネットワークの形成が必要

- ← 地域が地域づくりの担い手をイメージ (地域の主体性を確保)

- ← 地域側と都市側が連携・協働しつつ、人と地域 (地域の人) との“つながり”を創出 (偶発的なきっかけを創出、関わりを深化)

- ← ライフステージを踏まえながら、人生の転機の有効な活用方策を検討

### 2. 取組が持続可能となる環境の整備

人と地域 (地域の人) との“つながり”、シェアリングと地域との“つながり”を支える中間支援組織等が取組を継続できる環境を整備することが必要

### 3. シェアリングを活用した共助システムの構築

公的サービスのレベルが低下している地域では、公的な役割を補完する可能性がある協同組合型等のシェアリングが有効

## 本懇談会における議論の進め方(案)

### 第2回 地域づくりにおける関係人口の位置づけ

関係人口と連携・協働した地域づくりに係る事例など

委員からのプレゼン等

検証・議論

地域づくりにおける関係人口との関わり方を整理

### 第3回 地域と関係人口とのつながりの創出

関係人口とのつながりの創出に係る事例など

委員からのプレゼン等

検証・議論

地域と関係人口とのつながり創出に向けて必要な要素を整理

### 第4回 シェアリングを活用した地域づくり

地域づくりにシェアリングを活用した事例など

委員からのプレゼン等

検証・議論

地域づくりへのシェアリング活用方策を整理

### 第5回 関係人口の実態把握を踏まえた地域づくりのあり方

関係人口の実態把握の結果

関係人口の実態を踏まえた議論のブラッシュアップ

### 第6回 議論のとりまとめ

これまでの議論を総括し、関係人口と連携・協働した地域づくりのあり方及び地域づくりへのシェアリングの活用方策を整理

# 4. 地域との関わり度合いに応じた課題

○ 地域との関わり度合いに応じて、課題が異なるため、それぞれの段階に応じた対応の整理が必要

### 地域に関心がなく、訪問しない人 約41%※1

都市部

地域を訪れない

❌ 関心

➡

そもそも  
地域に関心がない

地方部・地域

○ どのように地域に興味・関心を持ってもらうか

### 地域に関心はあるが関わりがない人 約19%※2

都市部

地域を訪れない

🔄 関心

➡

関心はあるが  
地域を訪れない  
関わりがない

地方部・地域

○ 地域と関わってもらう（地域を訪問してもらう）ために必要なことは何か

### 地域を訪問しているが積極的な関わりがない人 約29%※3

都市部

➡ 地域を訪問

地縁・血縁的な訪問者  
趣味・消費型  
就労型(テレワーク等)

地方部・地域

当初の目的で満足  
それ以上を望まない

関係性を求めているが  
きっかけがない

地域・人との積極的な  
関わりがない

○ 地域・人とつながれる“きっかけ”はどのようなものか  
(地域に訪問している人をどのように地域と結びつけるか)

### 地域を訪問し、参加・交流をしている人 約6%※4

都市部

➡ 地域を訪問  
参加・交流型

地方部・地域

参加

イベント  
お祭り  
etc

地域との関わり  
の深化

地域・人

地域課題

○ どのようなきっかけで関わりを深めたいと思うのか  
(もう一步踏み出すために必要なものとは)

○ 地域での取組を深められるようにするためには何が必要か

### 地域での取組を継続したい人 約5%※5

都市部

➡ 地域を訪問  
直接寄与型  
就労型(副業等)

地方部・地域

信頼

関与

場合によっては移住  
関わりを継続したい

地域・人

地域課題

○ 関わりを継続するために必要なものは何か

○ そもそも第三者の関与は必要か

※1 特定の地域を訪問していない人のうち、地域と特に関わりを持ちたくないと回答した人  
 ※2 特定の地域を訪問していない人のうち、訪問・滞在して関わり地域があると良い又は訪問・滞在せずに応援できる地域があると良いと回答した人  
 ※3 地縁・血縁的な訪問者、趣味・消費型及び就労型のうちテレワークを行っている人  
 ※4 参加・交流型  
 ※5 直接寄与型及び就労型のうち地元の企業・事業所での労働、農林水産業での労働及び本業とは異なる仕事(副業や兼業など)をおこなっている人

# 5. 関係人口と地域の人との“つながり”のサポート

- SNS等のソーシャルメディア、インターネットプラットフォームは、都市住民が地域等に興味を持つことや地域に赴く“きっかけ”となり得る（共通の価値観を持つコミュニティ形成により、地域に赴くハードルを下げる）。
- つながりをサポートする「人」「場」「仕組み」については、そこに行けば誰かがいる、何かがあるといった固着性が地域への意識を高める観点からは重要であり、それぞれの個性・特徴・多様性を活かした有機的な連携・協働を生み出していくことが求められる。
- 持続性を担保するためには、キーマンの入れ替えを許容する等、オープンなシステムであることが必要であり、経済性を確保しつつ、コミュニティの魅力・個性を受け継いでいくことが重要。

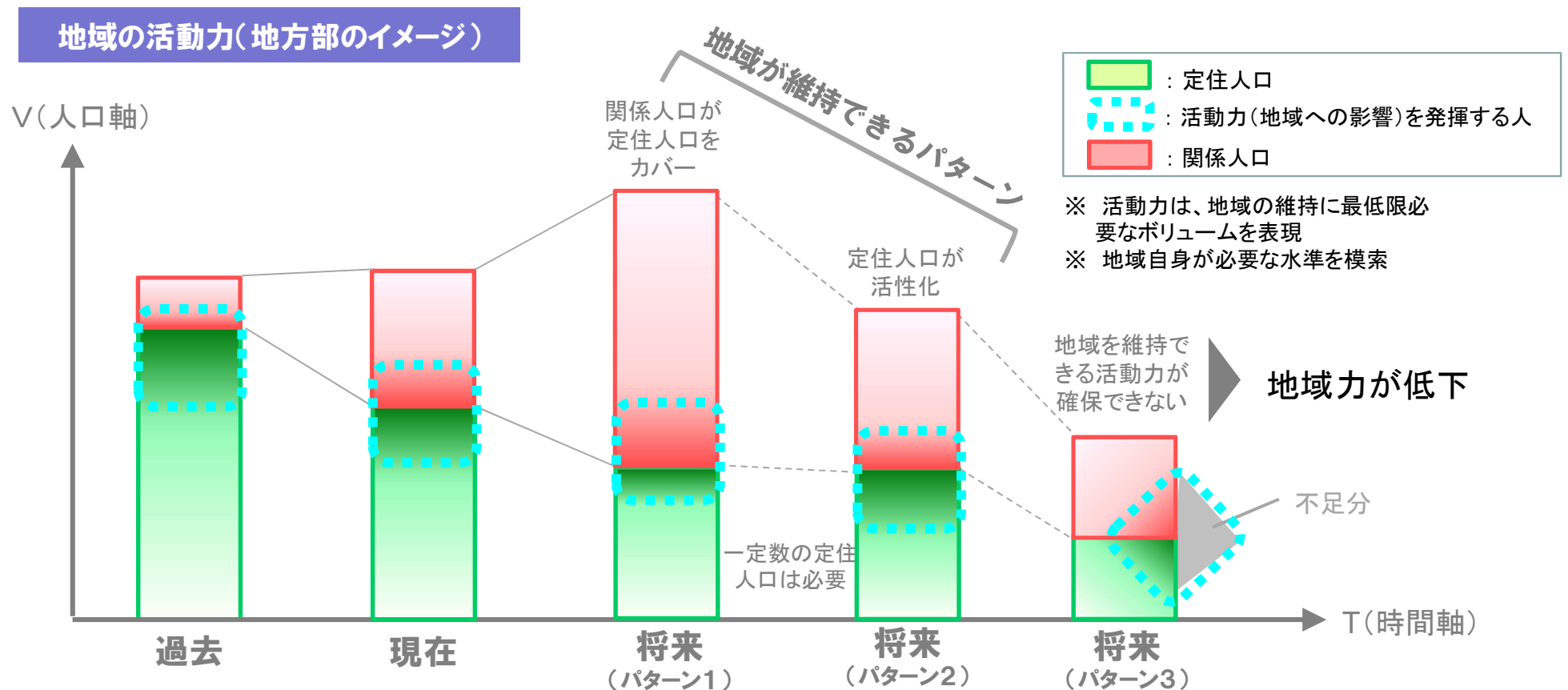
## 関係人口と地域の人との“つながり”のサポートのイメージ



# 6. 関係人口と地域づくり

- 人口減少、少子高齢化が進行している地方部において、地域づくりを進めていくためには、地域の主体性を前提としつつも、外部アクターとの連携を強調する「新しい内発的发展」を実現していく必要がある。
- 外部アクターの一例としては関係人口が想定され、意欲の高い地域住民と関係人口が共通の価値観でつながる新たなコミュニティを形成しつつ、連携・協働しながら地域づくりに取り組んでいくことが重要となる。
- 地域住民と関係人口が連携・協働するにあたっては、地域側が目指すべき方向性を明確化し、関係人口とどのように連携・協働していくのかについて、予め地域側で話し合いをしておくことが必要なのではないかと思料。

**地域の課題解決等に必要な「活動力」は、地域が求める水準に従って、地域ごとに異なると思料される**





# 7. 地域と関係人口の視点

- 地域の維持・向上に必要となる定常的な活動力は存在しないことから、前述のとおり、地域側が目指すべき方向性を明確化し、関係人口とどのように連携・協働していくのかについて、予め、地域側で話し合いを行うことが重要。
- ただし、内発的発展に直接寄与しない関係人口も地域に刺激を与える等、地域が変容していくきっかけとなることから、幅広い関わりを受け入れる土壌が求められる。
- 地域に行く側と地域に迎える側がwin-winの関係性を築き、相互が変容していくことが重要となる。

## 活動力を提供する関係人口の拡大・創出に向けて

### 地域に行く側の視点 (ex 都市側)

- 自己実現、ビジネスチャンス拡大等の観点から、地域に関わりたい、地域を訪問したいという希望・欲求  
← 動機付けが重要(人間は感情の生き物)
- 自己の満足度を高めるとともに、地域との信頼を構築し、関係性を深めていく活動を模索
- 可能な限り、自らの持つスキルを最大限活用できる活動であることが理想

### 地域に迎える側の視点 (ex 地方側)

- 地域自らが(場合によっては外部アクターと連携しつつ)、地域のあり方をイメージ
- 地域の維持・向上又は地域ビジョンの実現に必要な活動要素を地域が洗い出し  
【**地域が必要としている活動力・活動量**】
- 地域が定住者の現状から勘案し、「地域として求めている関係人口」を明確化するとともに、関係人口のために何ができるかを思考

出会いとつながりをサポートすることが重要

偶発性を生み出すことが重要

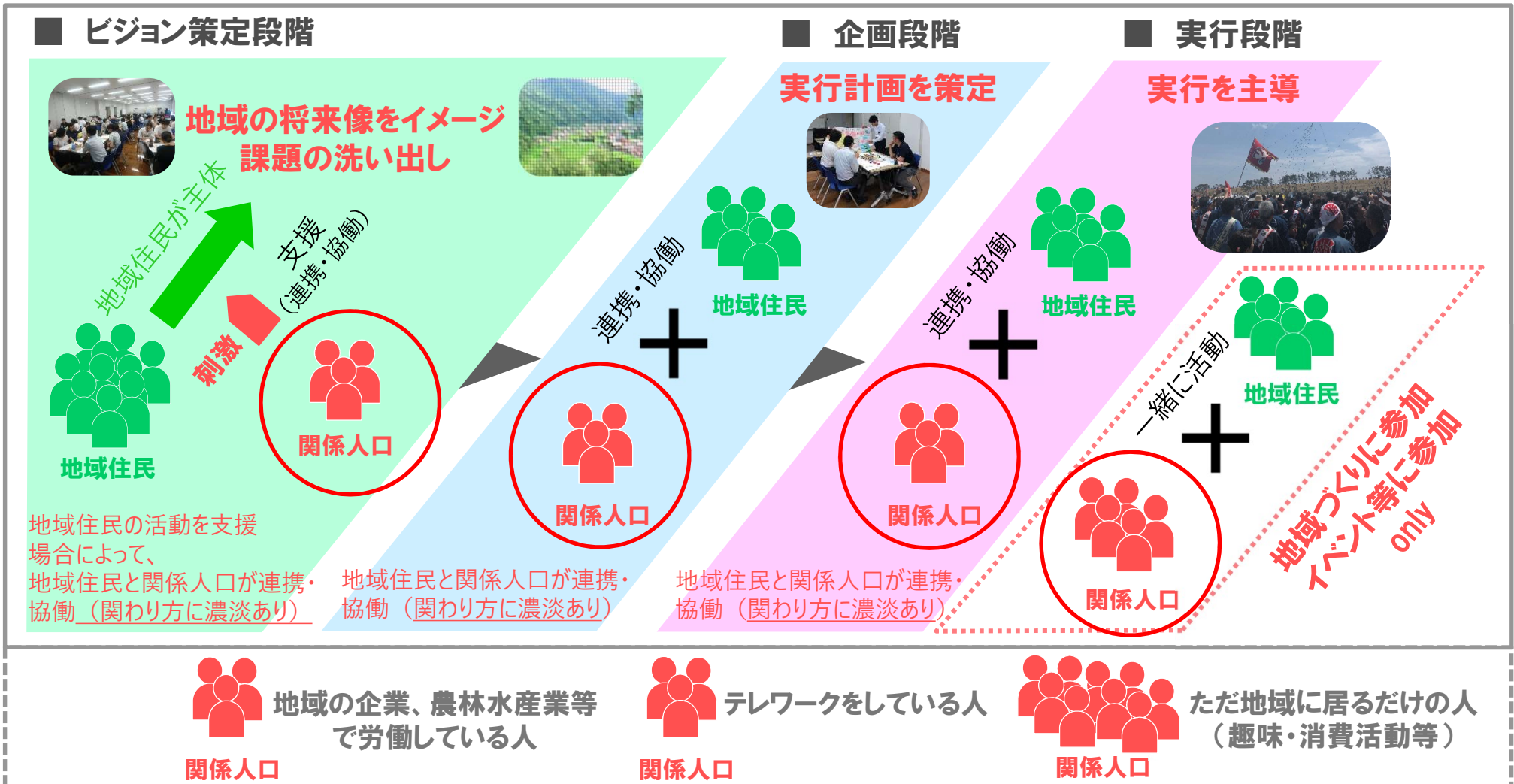
人と地域が出会い、つながることによって、相互が変容

# 8. 関係人口の地域づくり(地域活動)への関わりのイメージ

○ 関係人口の地域づくり(地域活動)への関わりについては、それぞれの地域・ケースにおいて多種多様であるが、関係人口にはビジョン策定段階、企画段階、実行段階等の各段階で、(単純な参加から積極的な参画など)濃淡のある多様な関わり方での活躍が期待される。

## ○ 地域づくり(地域活動)のイメージ

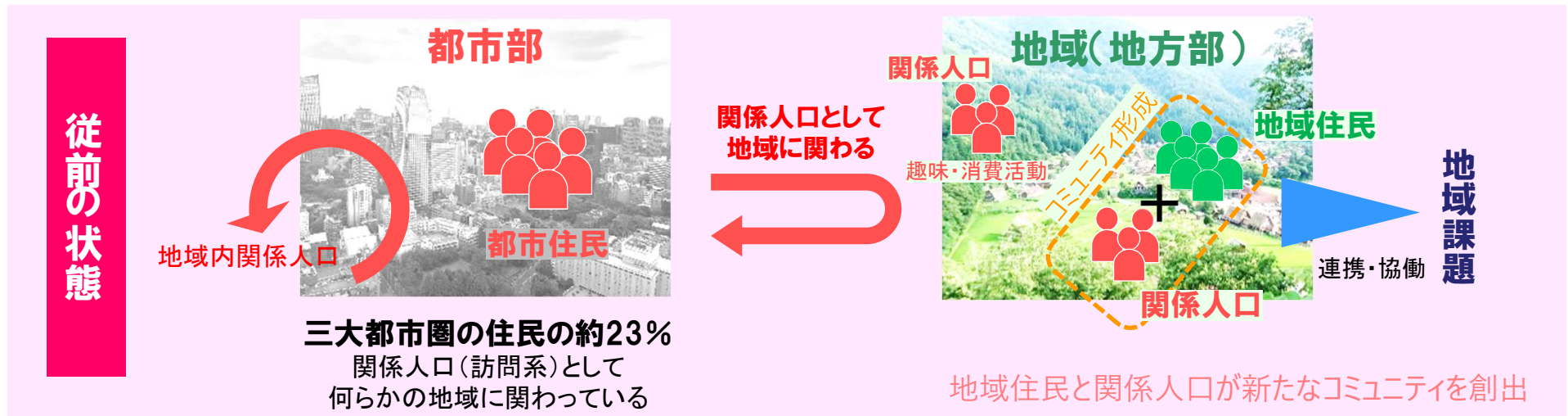
※ 写真はイメージであり、実際の地域づくりのものではありません



## II. 新型コロナウイルスと関係人口

# 9. 新型コロナウイルス感染症が地域との関わりにも与えた影響

- 新型コロナウイルスの感染拡大は、人々の行動に変容を求め、関係人口（訪問系）の行動を大きく制限



新型コロナウイルス蔓延時

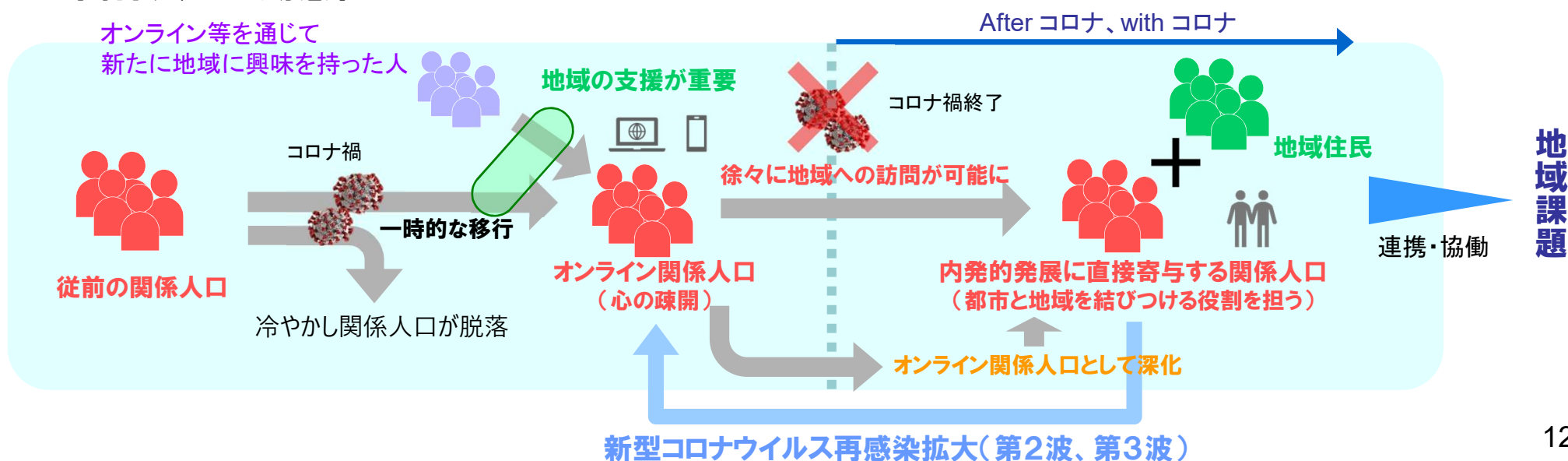
# 10. 新型コロナウイルスを踏まえた今後の関係人口

- 現時点では、新型コロナウイルスの感染拡大が再発する懸念もあり、感染状況によっては、再び緊急事態宣言が発出される可能性も否定できない。
- 緊急事態宣言等により移動自粛等が求められることや人と人の距離の確保が求められること等により、バーチャルな交流を中心とした“オンライン関係人口”が拡大。
- オンライン関係人口は、状況が正常化した際、都市と地域を強く結びつける役割を果たす可能性。

## 新型コロナウイルス感染症を踏まえた関係人口の動態性

- ・ SNSやインターネット、WEB会議システム等を活用したバーチャルな交流が拡大 【非接触型である「オンライン関係人口」の拡大】
- ・ 関係人口（訪問系）の一部が「オンライン関係人口」に移行 ← 冷やかしの関係人口は脱落
- ・ 一方で、時間的余裕、過密を避ける意識等から、新たに地域に関心を持つ層が出現し、これらの人々も「オンライン関係人口」に移行
- ・ 「オンライン関係人口」はその存在感を増していくとともに、新型コロナ禍が収束した後、地域の内発的発展に直接的に関与する関係人口となり、都市と地域を“つなげる”可能性（テレワークや地方志向の拡大等の社会情勢の変化が取り組みを後押し）
- ・ 新型コロナウイルスが再び感染拡大した場合や新たな感染症が発生した場合は、再度、「オンライン関係人口」に移行

### 関係人口の動態性のイメージ



### 【新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえた論点】

- 人の移動や接触が制限されている又は避けられている状況下において、「人」と「地域」との適切な関係とはどのようなものか。
  - ・ 人と地域を結びつけていくために必要なものとは何か。
  - ・ 地域側の適切な対応のあり方とは何か。
  
- 「オンライン関係人口」の創出のポイントとは何か。
  - ・ プラットフォーム、情報発信等に求められる仕組みとは何か。
  - ・ 人を引きつける魅力的なコンテンツとは何か（人的な広がりをもどのように確保していくのか）。
  
- 「オンライン関係人口」から、接触型関係人口や移住に深化するために必要な要素とは何か。
  - ・ 状況が好転した際に地域に赴いてもらうために必要な取組とは何か。
  - ・ 「オンライン関係人口」としての深化の可能性はあるのか。それはどのようなものなのか。

## ■ みんなの移住フェス2020オンライン

△△ カヤックLiving

【令和2年6月26～27日】



### ■ 開催趣旨

- 新型コロナの影響により、移住や関係人口イベントが自粛となり、移動が制限される一方、在宅勤務によるテレワークの拡大により、働き方や暮らす場所など、ライフスタイルを見直すきっかけとなっている。
- アフターコロナにおいては都市から地域への人の移動が予想されることから、アフターコロナ見据えたPR・ファン獲得に向けては、小さなつながりや関わりの構築（関係人口）が不可欠であり、そのきっかけとなる場をカヤックLivingが提供。

### ■ フェスの概要

- 地域を知る、地域に関わる、地域に貢献する関係人口という観点から、新たなライフスタイルへの気づきを提供。
  - ・ 地方自治体がオンラインブースを出展
  - ・ セミナー、トークイベント等のオンライン配信
  - ・ 移住等に係るオンライン相談窓口 etc

（出展）<https://www.kayac.com/news/2020/05/smout-fes>及びカヤックLiving提供資料より抜粋し、国土交通省国土政策局が編集

## ■ WhyKumano オンライン宿泊

【令和2年4月末まで】



### ■ 取組概要

- WhyKumanoでは、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、4月末まで店舗営業を一時休業し、“泊まらない宿泊施設”として「オンライン宿泊」を提供。
- Zoomを利用してチェックインした上で、すべての宿泊者とオーナーが食事をしながら談話し、22時に就寝。退合せず、引き続き、コミュニケーションを図ることが可能。
- 翌朝、オーナーが作成した見送りムービーを上映。

（出展）<https://sotokoto-online.jp/1212>より抜粋し、国土交通省国土政策局が編集

# 11-3. オンライン関係人口創出事例（その2）

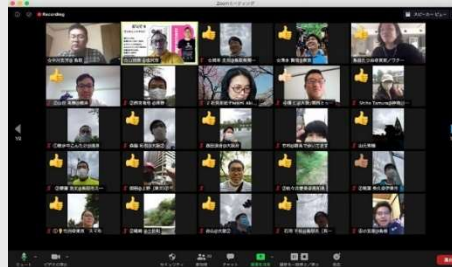
## ■ オンライン関係人口未来プロジェクト

### ■ 取組概要

- 塩尻市、鳥取市のNPO及び鳥取県がイベントを契機にコラボし、オンラインを通じた関係人口の可能性をさぐるプロジェクトを実施。
- 4月11日～6月13日まで毎週土曜7時からのオンラインイベントを10回開催
- 全国から400名以上が参加、150名以上がアイデア創出と実践のコミュニティを形成



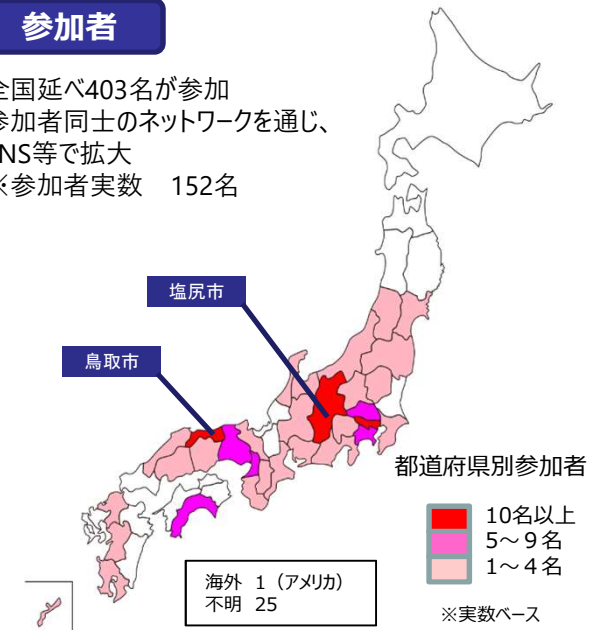
第1回タイトル



イベントの様子

### 参加者

全国延べ403名が参加  
参加者同士のネットワークを通じ、SNS等で拡大  
※参加者実数 152名



### プロジェクトの成果

- **オンラインで関係人口を形成**  
行ったことのない“鳥取”との関係形成（行きたい、関わりたい）
- **オンラインとオフラインの組み合わせによる関係の強化**
  - ・ 共通の体験によるつながりの強まり（スロージョギング、五感の共有）
  - ・ オンラインでの関係形成 ⇒ 現地体験への期待の強化

地方、都市住民、プラットフォーム、航空・鉄道関係者等20名以上が参加。  
（JR東日本、JR西日本、ANA、パソナJOBHUB、ドットライフ、おてつたび、グロービス地域活性化クラブ、Work Design Lab.、塩尻市、鳥取県、神戸市、三次市、都市圏からの参加者）

### “オンライン関係人口未来ラボ”スタート



### オンライン関係人口未来ラボでの取組の想定例

- ・ 「関係案内人」が企画・コーディネートする隠れた地域資源ツーリズムの実施
- ・ 地域の「稼業/生業/村業」への関わり創出を通じた社会人の成長と学び
- ・ 自治会のオンライン化（地域の困りごとの可視化）
- ・ 公共交通機関/エアラインの地域連携による企画の開発
- ・ 多地域との関係人口形成



### III. 関係人口の実態把握の見直し

## 12. 関係人口の実態把握に係る見直しの必要性 - ①

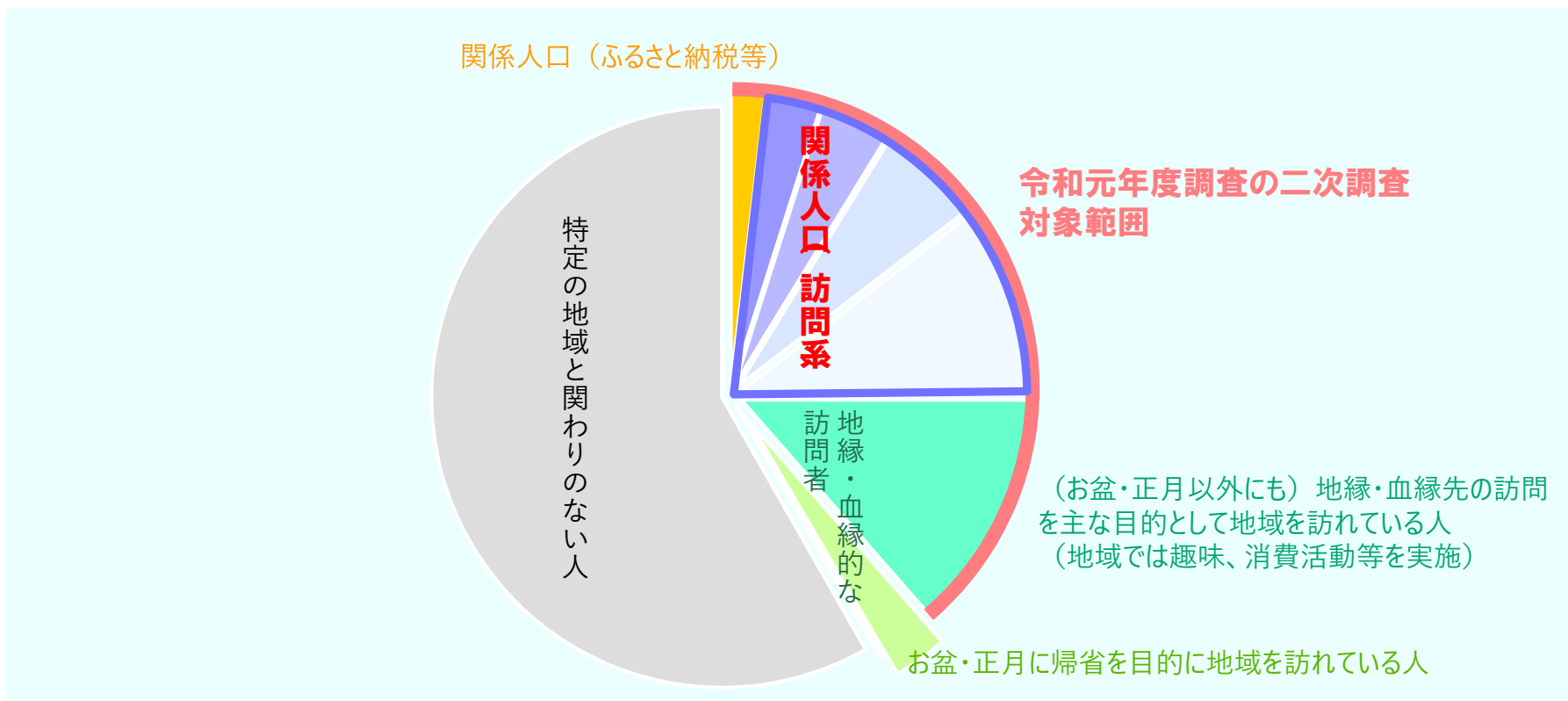
### 昨年度の関係人口の実態把握※を踏まえた課題 ①

※「地域との関わりについてのアンケート」  
(令和元年9月実施)をいう。以下同じ。

#### 1. 二次調査の対象範囲

「地縁・血縁的な訪問者」について、「お盆・正月以外にも地縁・血縁先の訪問を主な目的として地域を訪れている人（地域では趣味、消費活動等を実施）」については二次調査を実施しているものの、お盆・正月に帰省を目的に地域を訪れている人は1次調査までの実施に止まっている。

← 関係人口（訪問系）の範囲の見直しを行うために必要なデータが得られていない

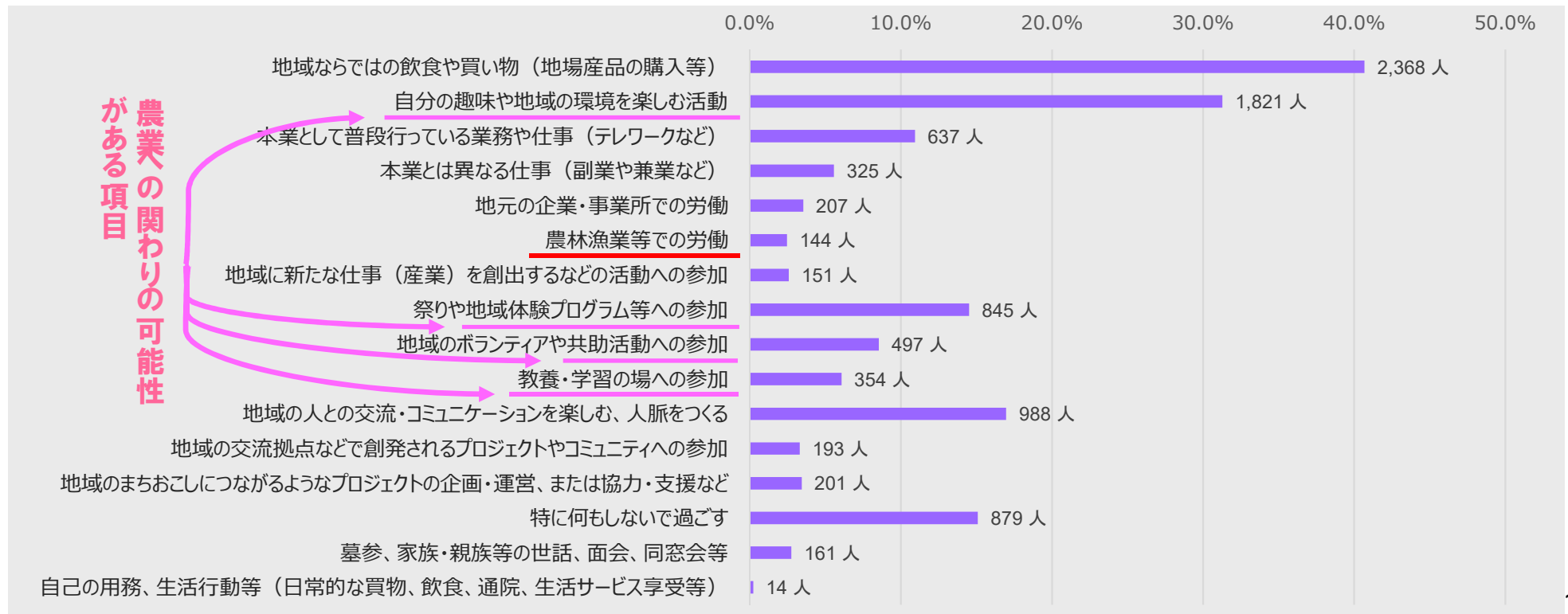


## 昨年度の関係人口の実態把握を踏まえた課題 ②

### 2. 訪問先における関わり方の把握に改善の余地がある

地方部における地域との関わりについて、市街地への関わりであるのか、農山漁村集落への関わりであるのか判別できない。

特に、農村の維持に重要となる農業への関わりについては、“農林漁業等での労働”により一部は明確に把握できているものの、趣味レベル（市民農園的なものを含む）の関わり、棚田の保全活動等が明確に区分できない。



## 昨年度の関係人口の実態把握を踏まえた課題 ③

### 3. 大分類の就労型の取扱い

大分類の就労型は、地域の企業等での副業や地域におけるテレワークの実施等、性質の異なるものが混在している状況（地元企業等での副業は地域との関わりが深いですが、単に本業とは異なる仕事の実施やテレワーク単独では地域との関わりが薄い可能性）。

#### 就労型に分類される地域への関わり方

…「地域との関わりについてのアンケート」(令和元年9月実施)  
関係人口(訪問系)の関わり先での過ごし方より抜粋

- 本業として普段行っている業務や仕事(テレワークなど) } 地域と関わっていない可能性
- 本業とは異なる仕事(副業や兼業など) } 両方が含まれている可能性
- 地元企業・事業所での労働 } 地域の産業に直接関わっている可能性大
- 農林水産業等での労働 }

### 社会情勢等の変化を踏まえた見直しの必要性

- 新型コロナウイルスの感染拡大により、人々の行動が制限されており、調査時点の現状把握という観点で実施すると、関係人口の総量を適切に把握できないおそれ。
  - ← 新型コロナウイルスの感染拡大による関係人口の動態性を踏まえた調査項目の設定が必要
  - ← 具体的には、新型コロナウイルス発生前の状況を把握しつつ、現状と今後の見込み（マインド）を調査してはどうか。

# 15. 関係人口の実態把握における見直しのポイント

令和2年度の関係人口の実態把握調査については、全国すべての地域を対象として実施

## 実態把握調査における内容の見直し(案)

### 1. 二次調査対象範囲の拡大

昨年度調査の結果を鑑み、帰省を目的に地域を訪れている人すべてを2次調査の対象とすることを前提として、業務発注を実施済み。

### 2. 二次調査において関係人口(訪問系)の動態性を把握(新型コロナウイルス感染拡大への対応)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、従前、関係人口(訪問系)であった人が地域への訪問を一時的に控えている可能性があることから、実態を動的に把握することを検討。

- ① 新型コロナウイルスが発生する以前の地域との関わりの状況をベースとして調査  
追加的に以下を質問
- ② 現状における地域との関わり方
- ③ 今後の意向(新型コロナウイルス感染継続時又は終息時)

### 3. 訪問先での関わり方をより詳細に把握

関係人口の拡大・深化に資する施策の方向性を検討するために、訪問している地域での関わり方をより詳細に把握(地域との関わりがより具体的にイメージできるような工夫が必要)。

- 市街地への関わりか、農山漁村集落への関わりかを把握
- 関わりの内容について、クロス分析が可能なように複層化

### 4. 訪問系の大分類の見直し

就労型のうち、性質が異なる地域での副業及びテレワークを区分し、整理を実施。